

令和8年度 第1回自己評価の分析

設問項目	肯定的回答			分 析 内 容
	生徒	保護者	職員	
【設問1】 楽しい場	94%	87%	97%	生徒、職員とも肯定的な回答であった。生徒で見ると「そう思う」と回答した生徒が266名であった。これは、「ややそう思う」と回答した生徒124名を大きく上回り、全体の9割近くの生徒が学校は楽しい場所であると回答したことになる。これは、1学期に体育祭、修学旅行、グリーンスクール、校外学習などが行われ、行事を中心に学年、学級づくりがなされ、充実した学校生活を送れたからなのではないかと推測できる。 しかし、「そう思わない」と回答した生徒が7名、「あまりそう思わない」と回答した生徒が18名であった。個に対して組織的できめ細やかな対応をさらに心がける必要がある。
【設問2】 学校施設	94%	93%	73%	生徒、保護者ともに肯定的な回答が90%を超えている。きれいな校舎で各教室にエアコンがあり、生徒は快適に学校生活を送っているようである。しかしながら、体育館の老朽化の指摘やエアコンの設置希望が自由記述にもみられる。職員においては、電子黒板の台数不足や通信速度の遅さから授業でのICT機器の活用の不便さもあり80%に達していないと考えられる。市に現状を報告し改善を図るとともに施設をきれいに保ち、大切に使用していくことが重要である。
【設問3】 情報発信	96%	94%	100%	生徒、保護者、職員とも肯定的な回答であった。さくら連絡網を活用し、お知らせや急な連絡、学校便りや学年便りなどの情報配信に肯定的な評価をしてもらえたと考える。一方で、行事等の連絡のタイミングが遅いという指摘もある。今後も積極的に情報発信ツールを活用し、効果的な発信に努め、生徒や保護者のニーズに答えられるように努力していきたい。
【設問4】 地域交流	80%	83%	85%	他の設問と比較し、肯定的な回答が低い傾向にある。2学期以降は職場体験学習や職業人に学ぶ学習において、地域の方々との交流を深めながら学ぶ機会がある。地域に開かれた学校づくりを目指しながら、今後も地域と連携した教育を心がけたい。
【設問5】 いじめ防止	86%	75%	94%	生徒の回答を見ると、「あまりそう思わない」と回答した生徒が39名、「そう思わない」と回答した生徒が18名であった。いじめゼロ学活や教育相談、いじめアンケートなど、いじめを防止する取組が計画的に行われている。いじめを「0」にするためにも、いじめを積極的に認知し、解決に向けて組織的に対応していくことが大切である。 今後も組織的にいじめを防止していく努力を継続していくことが必要である。また、いじめ防止に関し家庭との協力関係を築いていくことも重要である。
【設問6】 わかる授業	94%	79%	100%	生徒の回答を見ると、「そう思う」「ややそう思う」と肯定的に回答した生徒が、1年生は97%、2年生は95%、3年生は92%だった。学年が上がるにつれて学習内容も難しくなるが、職員の教材研究や授業改善を行い、生徒にわかりやすい授業を目指していく。保護者についても、家庭での生徒の話や定期テストの結果を踏まえて肯定的な回答が79%であったと考えられる。生徒が主体的に麻場美を深めるためにもより一層わかる授業を展開するために、今後も学力向上に向け各教科で研修を行い、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に継続的に取り組んでいく。
【設問7】 誠実な相談活動	94%	85%	100%	普段から事前指導、トラブルの未然防止、早期発見、丁寧な対応を心がけている。しかし、生徒や家庭が十分に納得できていない対応もあったことも考えられる。今後とも生徒や保護者との関わりを大切にして信頼関係を築きながら、特に保護者に対して学校での出来事を丁寧かつ正確に伝え、相談に対して真摯に対応していかなければならない。

設問項目	肯定的回答			分 析 内 容
	生徒	保護者	職員	
【設問８】 生徒理解 公平な評価	89%	78%	94%	保護者の回答を見てみると設問６と同じように肯定的な回答が８０％前後である。また、生徒は９０％を下回った。自由記述では、職員の対応が生徒個々によって異なる事の指摘もあった。 学校生活では職員による観察、声かけ、アンケート、教育相談等を定期的に行うことで生徒理解を深め、生徒の成長を支援していく。また、気になることは積極的に保護者と連携し、生徒理解につなげていく。 学習面の評価では、１学期は１回の定期テスト（５教科）で通知表も５教科の評価のみの通知を担当との面談で説明されるので、保護者としてわかりづらいところもあると思われる。教科担任が行った年間指導計画をもとにした適切で公平な評価を、説明までできるように取り組んでいく。
【設問９】 教育環境	95%	94%	94%	生徒、保護者、職員ともに肯定的な回答がほとんどであった。 廊下の掲示物は、生徒の興味関心を高めるものや行事に関係するもの、学年としての一体感を生むものが多く掲示されている。一方で、教室内や学年室、特別教室などの掲示物や環境整備など、改善できるところがあるので、日頃からの心がけを大切にするとともに、毎月の管理場所安全点検を確実に行之、修繕できるところは迅速に直していくよう努力していく。特に、体育館の老朽化に伴う不良箇所については、市と連携して改善に努める。
【設問１０】 授業への取組 ・時間を守る	94%	89%	91%	東金中のスローガンである「あ・じ・み・そ」の「じ」時間を守ることを意識し、生徒は２分前や５分前を呼びかける活動を積極的に行っている。今後は、係の声かけがなくても各自が時間を意識できるように、学校全体で取り組んでいきたい。
【設問１１】 交通ルールを守る	97%	69%	58%	今年度も交通安全については、機会をつくり指導をしている。 生徒のアンケートはほぼ全員が交通ルールを守っていると回答している。しかし、保護者は６９％、職員は５８％と生徒との差が大きい。自由記述では、並進、ヘルメットの未着用、交通マナーの悪さの指摘がある。命に関わるような事故が起こる前に、生徒が当事者意識をもち、交通安全の意識をより高め、安全な登下校ができるように、今後も継続して家庭と連携し、学校では指導や呼びかけの方法を改善していくことが重要である。
【設問１２】 元気なあいさつ	93%	81%	70%	今年度も生活委員会によるあいさつ運動を行い、「あ・じ・み・そ」の「あ」あいさつを大切にするために取り組んでいる。生徒と保護者・職員との回答に乖離が見られることから、生徒のあいさつは十分に相手に伝わっていないことが考えられる。 ２学期は職場体験学習等、地域の方々と交流する場もある。生徒の自治的な活動をとおして、あいさつの重要性に気づかせるとともに、さらに定着して習慣化するように今後も継続的に指導していく。
【設問１３】 身だしなみ	99%	91%	91%	「あ・じ・み・そ」の「み」身だしなみを整えることを意識している。昨年度同様、生徒・保護者・職員とも９割を上回る結果となった。生徒の規範意識の向上や家庭での理解・協力が、服装や身だしなみに表れている。今後も清潔感のある東金中生らしい身だしなみで生活できるよう指導を継続していく。
【設問１４】 清掃活動	97%	93%	45%	「あ・じ・み・そ」の「そ」掃除の行き届いた環境を意識し清掃活動に積極的に取り組む生徒が多い。職員は「もっと清掃活動を改善できる」という期待の表れにより、肯定的な意見が生徒・保護者と比較して低いと考えられる。今後もきれいな学校を維持できるように職員による率先垂範を心がけながら、生徒が公共心や勤労の精神をもって意欲的に清掃活動に取り組むように指導していく。
【設問１５】 保護者の参加	95%	92%	97%	１学期は授業参観、進路説明会（３年）、部活動保護者会、体育祭があり、平日開催であったものの、多くの保護者に参加していただいた。生徒の様子や学校の取組を知ってもらうことは大変重要なことだと考える。今後も保護者が参加しやすいよう事前に日程を周知し、行事を工夫して行っていく。

設問項目	肯定的回答			分 析 内 容
	生徒	保護者	職員	
【設問16】 学校行事	96%	97%	100%	生徒、保護者、職員において肯定的な回答が高い割合を示している。1学期に体育祭、修学旅行、グリーンスクール、校外学習などが行われ、生徒の自由記述からも、行事への関心や満足度が高いことが推察される。また、職員においては、生徒にとって充実した活動にするために、創意工夫を凝らし、計画段階から生徒との意思疎通を行い、丁寧に指導をした成果と考えられる。